

視覚の過敏症：アーレンシンドロームの相談

こちらに来られる前に、以下の検査を受けてきて下さい。

●眼科の医療機関でのメディカルチェック

(近視・遠視、屈折異常、乱視、飛蚊症、白内障・緑内障等)

●知能検査 (WISC-IV、WAIS-III・IV、KABC-II、DN-CAS 等)

1. 電話受付 連絡先：筑波大学心理・発達教育相談室

電話受付 03-3942-6850 日・水除く 10:30～12:00 13:00～16:30

以下の3つのことは必ずお伝え下さい。他の必要事項はこちらから追加でお聞きします。

●光 (太陽光、蛍光灯、LED 等) のまぶしさがあるかどうか

●読みの困難さがあるかどうか

●心身の疲労感があるかどうか

2. 日程調整

日程が決まりましたら感覚過敏・鈍麻のチェックリストをお送りします。

3. インテーク面接 (1回)

生育歴やこれまでの光に対する状況をおうかがいします。

4. スクリーニング検査 (およそ1回)

もし、アーレンレンズの装着を希望される場合は、次のステップに入ります。

5. レンズフィッティング (人によって1～3日程度かかります)

レンズオーダー (オーダーは当方が行います。米国のラボに発注します。)

6. レンズ到着 (オーダーから1か月程度かかります。)

参考図書：アーレンシンドローム：光の感受性障害：光を通して読む (金子書房) アーレンシンドローム：光に鋭敏なために生きづらい子どもたち (幻冬舎)

視覚の過敏症：アーレンシンドロームについて

光に関する感覚の過敏さ(鋭敏さ)をもっており、光がまぶしく見える、本を読むと文字がよく追えない、目を使うと疲れるなどの症状があります。発達障害の読むことの難しさ、身体の動きのぎこちなさ、自閉症傾向のある子どもの感覚過敏の問題とも関連しています。カラーフィルムを本のページにかぶせたり、カラーレンズをかけたりすることで、症状が改善することがあります。



カラーフィルムを使った読みの学習 (Dobrin, M.D. 2002, “The Light Barrier” より)



カラーレンズの装着

(左図：Irlen Institute より提供、右図：Dobrin, M.D. 2002, “The Light Barrier” より)

*カラーレンズやカラーフィルターのカラーは個人によって異なります。

筑波大学心理・発達教育相談室での担当相談員

熊谷恵子 (Irlen Diagnostician, 臨床心理士, 学校心理士 SV, 特別支援教育士 SV, 言語聴覚士)
新井里依 (Irlen Diagnostician, 学校心理士)
角田茉里恵 (Irlen Screener, 筑波大学大学院修士課程修了)
佐藤七瀬 (Irlen Screener, 臨床発達心理士, 筑波大学大学院博士後期課程)
三井菜摘 (学校心理士, アゼリア教育研究所)
小園侑理愛 (筑波大学大学院博士後期課程)

関連スタッフ

岡本史樹 (筑波大学附属病院眼科)
堀口涼子 (Irlen Screener, 帝京大学医療技術学部非常勤講師)
松下賢治 (大阪大学医学部眼科教室)
河嶋瑠美 (大阪大学医学部眼科教室)

質問等：kkumagai@human.tsukuba.ac.jp

アレンシンドローム
光に鋭敏なために生きづらい子どもたち

熊谷恵子 KUMAGAI KEIKO

アレンシンドロームの人たちには文字がこう見えてしまう事があります。

「文字が動きだして読みづらい」「LED照明の下ではまぶしすぎて暮らせない」そういう子供たちがいることを知ってください。

「文字が動きだして読みづらい」「LED照明の下ではまぶしすぎて暮らせない」そういう子供たちがいることを知ってください。

パソコンのピクセルまで見えるほどの鋭敏な視知覚をもつ子どもたちへの理解・対応。

「色を通して読む」光の感受性障害の理解と対応
Irlen Syndrome

アレンシンドローム
Reading by the Colors
Overcoming Dyslexia and Other Reading Difficulties Through the Irlen Method

ヘレン・アレン
Helen Irlen

熊谷恵子
Keiko Kumagai

熊谷恵子・稲葉七海・尾形雅徳
Keiko Kumagai・Natsumi Inaba・Masahiko Ozono